

2019 年北京国際園芸博覧会 政府屋内出展基本方針(案)

1 はじめに

2019 年北京国際園芸博覧会（以下「北京園芸博覧会」という。）については、中華人民共和国（以下「中国」という。）政府から参加招請があり、平成 30 年 4 月 6 日、幹事省を農林水産省と国土交通省として日本政府として公式参加することを閣議了解した。

農林水産省は花きと花き文化の屋内出展を、国土交通省は日本庭園の屋外出展を行うこととしており、政府屋内出展基本方針は、屋内出展を進めるに当たって基本となるものであり、これに基づいて実施計画の策定等の具体的な準備を行っていくこととなる。

2 北京園芸博覧会の概要

北京園芸博覧会は、平成 31 年（2019 年）4 月 29 日から 10 月 7 日までの 162 日間、「緑の生活、より良い生活（Live Green, Live Better）」をテーマに中国北京市郊外で開催される。約 100 か国・機関の参加と約 1,600 万人の入場者（うち 20%は海外から）が見込まれている。

我が国は、博覧会会場の世界園芸展示区の中にある 2,550 m²の区画で屋内展示と屋外展示（日本庭園）を調和のとれた一体となるよう行うこととしている。

3 我が国の花きをめぐる状況

(1) 多様で高品質な花き

我が国の多様で高品質な花きは、これまでの国際園芸博覧会のコンテストで多くの賞を受賞するなど国際的に高い評価を得ている。

また、四季のはっきりした自然に対する畏敬と感謝の気持ちをあわせ持つ日本人の自然観は、生け花や盆栽、門松等の世界に誇る豊かな花きの文化を育んできた。

(2) 花き産業

我が国の花き産業は、農地や農業の担い手の確保を図る上で重要な地位を占めるとともに、花きに関する伝統と文化は国民の生活に深く浸透し、国民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っている。「花きの振興に関する法律」（平成 26 年法律第 102 号）は、花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針の策定とともに、花きの輸出の促進、花きの博覧会への参加に対する支援について規定している。

国内の切り花購入額は減少傾向、輸入切り花は増加傾向にある中で、農林水産業の輸出力強化戦略の一環として、平成 31 年（2019 年）の花き輸出額 150 億円を目標として取り組んでいる。

4 出展の基本的考え方

我が国の多様で高品質な花き、そして奥行きのある花き文化を中国をはじめ世界に向けて発信することで以下の実現を図る。

（１）輸出拡大と産業振興

国産花きの輸出拡大と我が国花き産業の振興を図るため、花き関係団体や関係省庁等と連携を図って取り組むことが必要である。

（２）日本への関心に応える

外国から日本への訪問客に関しては中国からが最も多く、さらに、訪れたい国の一位となるなど日本に対する関心は高い。より多くの来場者を達成するためには、今の日本の生活の様々な場면을演出している日本の花きと花き文化を表現することが重要である。

（３）被災地復興支援への感謝

東日本大震災の被災地で生産された花きの展示や現地での花育の様子などを伝えることにより、被災地の復興と支援に対する感謝を示す。

5 屋内出展のテーマ

開催主体と来場者に我が国のメッセージを伝える屋内出展のテーマは、次の視点から検討する。

ア) 博覧会テーマである「緑の生活、より良い生活 (Live Green, Live Better)」、日本庭園を含む日本政府出展のテーマ「Japanese Green Lifestyle」との関係性

イ) 我が国の花き産業・花きの文化の特徴や魅力が表現されるとともに、入場者を引きつける力

ウ) その他に考慮すべき視点の例

ー日本の生活の様々な場면을演出している花きの多様性

ー環境に優しく持続的な園芸技術

ー花や緑に親しみ、情操を育む「花育」

6 展示・催事等の内容と方法

(1) 展示

- ・ 日本の豊かな四季を活かした展示とする。
- ・ 企画展示（地方公共団体、園芸関連団体、民間企業等が参加）ではそれぞれの特色を活かした展示とするとともに、屋内展示全体では屋内出展のテーマの下で統一感のある展示とする。
- ・ 実物や写真、映像等の様々な媒体の活用、「発見」と「体験」、花き以外の我が国の文化と関連づけた演出等により来場者の記憶に残る工夫を行う。
- ・ 展示花きの品質管理などのため専門スタッフを配置する。
- ・ 展示品の知的財産権に配慮する。

(2) 商業的活動

中国におけるビジネス展開の参考となる取り組みを行う。

- ・ 商業スペースの確保とキャッシュレス決済の導入
- ・ 商談スペースの確保や受付で収集したバイヤー情報等の出展者への還元
- ・ 我が国と中国の花き業界の関係強化とビジネス拡大を目的とする意見交換会の開催

(3) 催事

- ・ 開会式、閉会式、ナショナルデーでは、生け花、茶道などにより日本の花き文化を演出することで、来場者の記憶に残る工夫を検討する。
- ・ 両国の花きと花き文化についての意見交換、日本の伝統的な花き等の文化を広く紹介するプログラムを実施する。
- ・ 現地の日本人コミュニティにボランティア参加などの協力を求める。

7 広報、啓発活動

雑誌などの紙媒体、ウェブサイト、SNS等の双方向メディアなど多様な媒体を活用して日本の出展、日本の花き・花き文化を広くPRする。

(1) 会期前

出展者の地元を含む国内向け広報とともに、中国語と英語での広報を実施する。

(2) 会期中

日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、品種コンテストの結果等を積極的に広報する。

インフォメーションカウンターの設置、専門スタッフの配置により積極的な情報提供を行う。

(3) 会期後

コンテスト受賞品種等を広報する。

8 花き業界の活性化と若手の育成

我が国から近く、我が国の花きの輸出額の半分を占める中国での開催であり、花きの育種、生産、流通、販売、文化等の各分野が企画展示、品種コンテストや催事への参加、専門スタッフの派遣などの様々な形で協力することで、花き業界全体の国際化と振興につなげる。

また、将来の花き業界を担う若手の育成と交流の場を提供する。

(参 考)

2016アンタルヤ	2019北京
<u>1.はじめに</u> ・花き産業（地位・役割、動向、振興法） ・アンタルヤの意義 <u>2.博覧会概要</u> <u>3.出展の基本的考え方</u> (1) 目指すべき方向 (2) 具体的方策 ①海外へのアピール ②文化の発信 <u>4.出展テーマ</u> (1) 設定に向けた方法性 ①博覧会テーマとの整合性 ②花き産業・文化を象徴 (2) 例 <u>5.展示・催事</u> (1) 展示 (2) 商業的活動 (3) 催事 ①開会式等 ②その他 ③現地団体との連携 <u>6.広報・啓発活動</u> (1) 国内 (2) 海外 <u>7.花き業界の活性化</u>	<u>1.はじめに</u> ・閣議了解 ・農水と国交の分担 ・基本方針の役割 <u>2.博覧会概要</u> <u>3.我が国の花きをめぐる状況</u> (1) 多様で高品質な花き (2) 花き産業 <u>4. 出展の基本的考え方</u> (1) 輸出拡大と産業振興 (2) 日本への関心に応える (3) 被災地復興支援への感謝 <u>5.出展テーマ</u> 検討の視点 ア) 博覧会テーマ、日本国出展テーマとの関連性 イ) 花き等の魅力を表現し、引きつける力 ウ) その他の視点の例 <u>6.展示・催事</u> (1) 展示（豊かな四季を活かす、統一感、専門スタッフの配置・・・） (2) 商業的活動（ビジネス展開の参考に） (3) 催事（開会式等：記憶に残る演出、現地日本人コミュニティとの協力） <u>7.広報・啓発活動</u> (1) 会期前 (2) 会期中（インフォメーションカウンター） (3) 会期後 <u>8.花き業界の活性化と若手の育成</u>